

2027年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年8月14日
東

上場会社名 アビックス株式会社 上場取引所
コード番号 7836 URL <http://www.avix.co.jp>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 岩切 敏晃
問合せ先責任者 (役職名) 管理部長 (氏名) 松田 昂平 (TEL) 045-670-7720
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 無
決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2027年3月期第1四半期の連結業績(2026年4月1日～2026年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		EBITDA		営業利益		経常利益		親会社株主に 帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年3月期第1四半期	732	△17.9	△23	—	△69	—	△73	—	△88	—
2026年3月期第1四半期	892	24.2	37	79.9	△6	—	△10	—	△31	—

(注) 包括利益 2027年3月期第1四半期 △86百万円(—%) 2026年3月期第1四半期 △30百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2027年3月期第1四半期	△2.52	—
2026年3月期第1四半期	△0.90	—

EBITDA＝営業利益＋減価償却費＋のれん償却費

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年3月期第1四半期	2,891	1,899	65.1
2026年3月期	3,698	1,983	53.3

(参考) 自己資本 2027年3月期第1四半期 1,882百万円 2026年3月期 1,971百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2027年3月期	—				
2027年3月期(予想)		0.00	—	0.00	0.00

3. 2027年3月期の連結業績予想(2026年4月1日～2027年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		EBITDA		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
通期	6,200	14.7	437	7.3	250	9.3	247	9.0	174	△25.0

EBITDA＝営業利益＋減価償却費＋のれん償却費

1株当たり当期純利益 円 銭 4.98

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 有
新規 1 社 (社名) 合同会社 a u a 、除外 一社 (社名)
期中における連結範囲の重要な変更に関する注記

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用に関する注記

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

会計方針の変更に関する注記

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2027年3月期1Q	35,129,566株	2026年3月期	35,129,566株
② 期末自己株式数	2027年3月期1Q	一株	2026年3月期	一株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2027年3月期1Q	35,129,566株	2026年3月期1Q	35,129,566株

発行済株式数に関する注記

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は : 無
監査法人によるレビュー

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料の業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社において判断した見通しであり、潜在的なリスクや不確実性を含んでおります。実際の業績は、様々な要因の変化により、これらの業績見通しとは異なる結果となることをご承知の上、投資判断くださるようお願い致します。業績予想の前提となる仮定等につきましては、添付資料P.3「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	7
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8
(セグメント情報等の注記)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国の経済は、実質賃金の改善を背景に個人消費に持ち直しの動きが見られる一方、中東情勢の緊迫化に伴う原油価格の上昇や、これに起因する物価上昇圧力により、消費者マインドは依然として力強さを欠く展開となりました。設備投資についても様子見の姿勢が続くなど、企業・家計双方にとって先行き不透明な状況が継続いたしました。

当社グループの主たる事業領域であるデジタルサイネージ市場においては、AIを活用したコンテンツ最適化やプログラマティック配信基盤の普及、スマートシティ構想の進展を背景に、構造的な拡大が続いております。単なる広告媒体としての役割にとどまらず、顧客体験の向上や店舗・施設の収益創出に資するマーケティング基盤としての需要が一段と高まっており、当社のサブスクリプション型ビジネスとの親和性はさらに強まっております。

こうした環境の中、当社グループは「デジタルサイネージ業界No. 1」の実現に向け、スタジアム・大型商業施設等の領域における実績と信頼を軸に、新規案件の獲得と既存契約の積み上げを進めてまいりました。当社グループの事業構造上、案件の稼働開始やコンテンツ更新等が下期以降に集中する傾向があることから、例年、季節的な要因により損失となる傾向にあり、当第1四半期についても同様の状況によるものです。

以上の結果、当連結会計年度における業績は、売上高732,940千円（前年同期比17.9%減）、営業損失69,874千円（前年同四半期は営業損失6,245千円）、経常損失73,713千円（前年同四半期は経常損失10,357千円）、親会社株主に帰属する四半期純損失88,428千円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失31,502千円）となりました。また、当連結会計年度におけるセグメントごとの業績は以下のとおりです。

①デジタルサイネージ関連事業

デジタルサイネージ関連事業では、デジタルサイネージの企画・設計・販売、CMS（コンテンツマネジメントシステム）「DiSi CLOUD」を中心とした運営・保守サービス及び販促支援サービスを提供しております。

企画・設計・販売につきましては、スタジアム・アリーナ、大型商業施設、スポーツ施設、オフィス、シネマコンプレックスなど幅広い分野で案件を受注しており、今後もデジタルサイネージ需要の拡大を背景に事業拡大を推進してまいります。

運営・保守サービスにつきましては、「DiSi CLOUD」を中心とした月額利用契約により、安定的かつ継続的な収益基盤の構築を進めております。また、AIサイネージソリューション等を統合したデジタルプラットフォーム「MiRAi PORT」の展開を推進し、ソフトウェアと運営・保守を含めたトータルソリューションの提供を強化しております。

以上の結果、デジタルサイネージ関連事業は売上高675,366千円（前年同四半期比20.6%減）、セグメント損失67,430千円（前年同四半期はセグメント損失8,118千円）となりました。

②Value creating事業

デジタルプロモーション株式会社が運営するValue creating事業につきましては、自ら運営するハイパーローカルメディア「タウンビジョン」や地元密着の記者、各種SNSサービスの活用、Web制作及びアプリ制作、AI・データ活用によるDX支援といったターゲットユーザーに響くコンテンツ（記事、動画、Web）制作及びソリューション提供により、地域での企業のPR、ファン作り、集客からブランディング、また地方自治体の魅力あるコンテンツ開発など地域に係るエリアファンマーケティング（地域密着型マーケティング）を行っております。

当第1四半期におきましては、既存顧客との取引継続に加え、新規顧客の獲得も進み、デジタルサイネージ運用代行及びSNS運用代行を中心とするサブスクリプションモデルが堅調に推移いたしました。また、AIを活用したシステム、スマートフォンアプリ及び統合データ基盤（DWH）の導入につきまして、それぞれ要件定義業務を受注し、従来のコンテンツ制作を軸としたサービスに加え、AI・データを活用したDX支援へと提供領域を広げております。

以上の結果、Value creating事業は、売上高57,573千円（前年同四半期比34.2%増）、セグメント利益3,329千円（前年同四半期比77.8%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末の資産は、2,891,752千円（前連結会計年度比806,373千円の減少）となりました。その主な要因は、現金及び預金、売掛金が減少したことによるものです。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末の負債は、992,087千円（前連結会計年度比722,624千円の減少）となりました。その主な要因は、買掛金が減少したことによるものです。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末の純資産は、1,899,665千円（前連結会計年度比83,749千円の減少）となりました。その主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2027年3月期の業績予想につきましては、2026年5月15日に発表いたしました業績予想に変更はございません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2026年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,134,314	621,876
受取手形	18,555	645
電子記録債権	91,507	180,284
売掛金	1,225,718	308,090
商品及び製品	304,710	527,084
仕掛品	79,289	102,594
原材料	3,904	4,351
前渡金	263,619	567,448
その他	41,308	56,825
貸倒引当金	△359	△126
流動資産合計	3,162,569	2,369,074
固定資産		
有形固定資産		
建物附属設備（純額）	21,139	24,562
車両運搬具（純額）	0	0
工具、器具及び備品（純額）	154,524	156,067
レンタル資産（純額）	15,018	13,292
有形固定資産合計	190,682	193,922
無形固定資産		
のれん	276,842	250,051
その他	12,217	10,152
無形固定資産合計	289,059	260,203
投資その他の資産		
投資有価証券	52,692	43,913
繰延税金資産	4,066	5,320
その他	21,855	42,117
貸倒引当金	△22,800	△22,800
投資その他の資産合計	55,814	68,551
固定資産合計	535,556	522,677
資産合計	3,698,125	2,891,752

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2026年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	710,646	247,078
短期借入金	300,000	—
1年内返済予定の長期借入金	122,900	122,900
未払法人税等	15,538	8,525
賞与引当金	38,503	21,233
前受金	120,686	199,895
その他	128,422	140,917
流動負債合計	1,436,697	740,549
固定負債		
長期借入金	108,300	75,700
繰延税金負債	7,348	15,231
預り保証金	150,000	150,000
その他	12,364	10,605
固定負債合計	278,013	251,537
負債合計	1,714,711	992,087
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,207,564	1,207,564
資本剰余金	615,454	615,454
利益剰余金	139,329	50,901
株主資本合計	1,962,348	1,873,919
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,976	3,903
繰延ヘッジ損益	4,565	4,945
その他の包括利益累計額合計	9,541	8,848
非支配株主持分	11,524	16,896
純資産合計	1,983,414	1,899,665
負債純資産合計	3,698,125	2,891,752

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
売上高	892,971	732,940
売上原価	633,787	502,878
売上総利益	259,183	230,061
販売費及び一般管理費	265,429	299,936
営業損失(△)	△6,245	△69,874
営業外収益		
受取利息	38	—
為替差益	—	249
その他	6	—
営業外収益合計	44	249
営業外費用		
支払利息	923	1,672
持分法による投資損失	1,717	956
為替差損	412	2
その他	1,101	1,457
営業外費用合計	4,156	4,088
経常損失(△)	△10,357	△73,713
特別損失		
弔慰金	10,000	—
特別損失合計	10,000	—
税金等調整前四半期純損失(△)	△20,357	△73,713
法人税、住民税及び事業税	4,276	4,805
法人税等調整額	2,045	7,133
法人税等合計	6,322	11,938
四半期純損失(△)	△26,679	△85,652
非支配株主に帰属する四半期純利益	4,822	2,775
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△31,502	△88,428

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
四半期純損失(△)	△26,679	△85,652
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,670	△1,072
繰延ヘッジ損益	△6,688	△23
その他の包括利益合計	△4,017	△1,096
四半期包括利益	△30,697	△86,749
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△32,175	△89,513
非支配株主に係る四半期包括利益	1,478	2,764

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
減価償却費	16,902千円	19,474千円
のれんの償却額	26,791千円	26,791千円

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		調整額 (注1)	合計
	デジタル サイネージ関連	Value creating		
売上高				
外部顧客への売上高	850,082	42,889	—	892,971
セグメント間の内部 売上高又は振替高	627	1,380	△2,007	—
計	850,710	44,269	△2,007	892,971
セグメント利益又は セグメント損失(△)	△8,118	1,872	—	△6,245

(注) 1 セグメント売上高の調整額△2,007千円は、セグメント間取引消去によるものであります。

2 セグメント利益又はセグメント損失(△)の合計額は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

3 セグメント利益又はセグメント損失(△)には、適当な配賦基準によって、各報告セグメントに配賦された全社費用を含んでおります。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		調整額 (注1)	合計
	デジタル サイネージ関連	Value creating		
売上高				
外部顧客への売上高	675,366	57,573	—	732,940
セグメント間の内部 売上高又は振替高	349	18,545	△18,894	—
計	675,716	76,118	△18,894	732,940
セグメント利益又は セグメント損失(△)	△67,430	3,329	△5,774	△69,874

(注) 1 調整額については下記内容となります。

(1) セグメント売上高の調整額△18,894千円は、セグメント間取引消去によるものであります。

(2) セグメント利益又はセグメント損失の調整額△5,774千円は、セグメント間取引消去によるものであります。

2 セグメント利益又はセグメント損失(△)の合計額は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

3 セグメント利益又はセグメント損失(△)には、適当な配賦基準によって、各報告セグメントに配賦された全社費用を含んでおります。